

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称 施策Ⅲ-3-3 国際化と多文化共生の推進

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 文化国際課長 坂本 偉健 電話番号 0852-22-6006

事務事業の名称	民間交流・友好団体等の支援	
目的	(1) 対象	県民
	(2) 意図	国際交流活動等を促進する
事業概要	韓国慶尚極道との交流が中断し、同国との交流事業が大幅に減少したなか、同国に対する理解を深める機会を提供するもので、同国の国際交流員が中心となつて、複数回の座学及び現地研修を行う。 また、島根県日韓親善協会連合会が行う事業の支援を行う。	

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	式・定義	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			指標名	講座参加人数	目標値		20.00	20.00	20.00
		講座へ参加する県民の最低人数	実績値	15.00	20.00	14.00	26.00		
			達成率		100.00	70.00	130.00		%
	指標名	式・定義	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		0.00	0.00			
			実績値	0.00	0.00	0.00			
			達成率		0.00	0.00			%

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	1,219	1,286
うち一般財源(千円)	1,219	1,286

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

韓国との政治状況やメディア等により、応募者数に変化があるが、26年度にあっては、県内の民間事業者が実施する韓国語講座等でも呼びかけてもらったことで、参加者が増加した。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

慶尚北道との交流が中断している中、県民に対し、韓国との交流をすすめ、両国民の相互理解を図る機会を提供している。
また、日韓親善協会にあっては、理解講座の講師紹介や青少年交流時に協力いただくなど、韓国との交流におけるパイプ役を果たしてもらっている。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

- ①困っている「状況」
年によって差があるが、応募者数が伸び悩んでいること。
- ②困っている状況が発生している「原因」
政治状況やメディア報道についてはいかんともしがたいが、周知方法には工夫が必要。
- ③原因を解消するための「課題」
広聴広報課が持つ広報枠が限られていること、個人のネットワークにも限界があることが課題。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

韓国との領土問題がある中で、同国に対する理解を深めることは大変重要であり、県の広報枠の活用以外にも、韓国語教室や韓国交流を行う団体等と連携して実施する。
また、講座が魅力的な内容となるよう、時宜に応じたテーマ、講師について工夫しながら進める必要がある。

◎課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）